資料１

学生生活をデザインするために

長いようで短い 48 ヶ月－どう過ごすかは君次第

大学生活の４年間は、長いように見えても、実際にはあっと言う間に過ぎてしまうはず。その場しのぎにならず、見通しと計画をもって学生生活を送ることが大切です。そこで、それぞれの学年でどんなことをした方がよいか、目安としてまとめてみました。もちろん、あくまで目安です。以下を参考に、自分なりに学生生活をデザインしてみてください。

◆ １年生　手がかりをつかむ

□　もう「生徒 pupil」ではなく、「学生 student」なんだと自覚する。

□　カリキュラムの全体像と学年進行を把握し、どんなふうに学習を進めるか、そのために１年次ではどんな科目を履修するかを決める。分からないことは自分から積極的に質問することが大事。

□　授業を受けながら、大学生らしい勉強のスタイル、自分の頭で考える力を身につける。また、図書館を利用する習慣を。

□　勉学や生活上で困ったとき、どこに相談すればよいかを知っておく。また、本音で話ができる身近な相談相手をつくる（友人・先輩・話しやすい教職員など）。場合によっては、人間らしい恋愛の仕方を学ぶ（学年は関係ないかも）。

□　クラブ・サークル・自治会・生協などの学生団体や、球技大会・大学祭・学外ゼミなどの学生の自主活動に積極的に参加し、経験と交友を広げる。※みんなで何かをすることは、だいたいの場合、楽しい。

□　職業に関するいろいろな情報をキャッチしたり、教職員からキャリアに関する話を聞いたり、就職ガイダンスなどにも参加して、自分の将来を夢みる。※大学生らしく現実味を帯びた形でね。

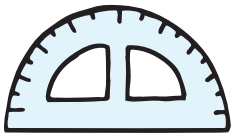
◆ 2年生　方向を見定めていく

□　どんな分野やテーマを専門的に勉強していきたいのかを、先輩や教職員から話を聞いたり、自主ゼミ（国際政策）や課題ゼミ（人間福祉）に参加したりして考え、３年生以降の学習の見通しや計画を立てていく。

□　学生団体や学生の自主活動を積極的に担い、後輩を育てていく。※この時期どんな活動をしたかが、就職活動の際、志望先のエントリーシートや面接でものをいいますよ。

□　就職ガイダンス・実習・インターンシップなど、キャリア形成関係の機会を積極的に活用し、卒業後の進路希望を具体化していく。また、その進路に進むために何が必要かを調べていく。

☆この時期に 20 歳を迎える人は、世間からの大人扱いに浮かれないで、「もう大人なんだ」と自覚する。いろいろな勧誘も増えるので要注意。
☆2 年から 3 年への春休みが重要！大学生活の中間点として、自分の越し方行く末をじっくり考え、次の行動の準備をする重要な時間。



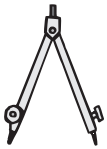
◆ 3年生　行動を起こす

□　自分の問題意識を明確にして課題ゼミを選択し、専門的な勉強を進める。指導教員に積極的に助言を求め、意見や疑問もどしどしぶつけていく姿勢が大事。

□　希望進路に向けて、本格的な準備を進める。必要な情報を集めるとともに、キャリア形成関係の機会を積極的に活用する。

◇公務員志望者は1年後の試験（4年生の4〜6月ころ）に向けて勉強を始める。
◇民間企業は3年生の秋から会社説明会などを始めるので、前期のうちに就職活動に必要なことを調べ、準備しておく。
◇人間福祉学部では実習が本格化するが、これは職場体験であると同時に重要な就職活動でもある。そういう視点ももって実習に取り組む。
◇大学院進学希望者は、進路希望大学院を考えて情報を集め、必要な準備を始める。

☆3年末の春休みは、すでに就職活動が本番を迎えており、内々定を出す企業さえある。この時から準備を始めたのでは遅すぎるのです。



◆ 4年生　結果を出す

□　卒業研究テーマを具体化し、研究に取り組む（じっくり取り組むためにも進路は早く決めておきたい)。指導教員を積極的に活用することが必要不可欠。4 年生の終わりには、卒論を仕上げた感動を味わう。

□　前期早々から公務員試験・就職活動・大学院入試などに取り組み、結果を出す。実習が続く人間福祉では、希望進路によって募集の時期が異なるので、計画的な就職活動を。

※失敗してすぐに結果が出なくても、へこたれないこと（「間違えればこそ人間である」)。友人・家族・知人・教職員からも応援してもらおう（逆に応援してあげることも忘れない)。

□　勉学や進路での教訓を、後輩に伝授する。

□　学生時代に出会った人たちとの関係を、卒業後も大切にする。

☆卒業おめでとう！